

八代市男女共同参画推進情報誌

Mi★Rai

みらい



男女共同参画宣言都市
八代市 シンボルマーク

第6号



うらやましい…

今日、一杯
つきあえよ。

すみません、子ども
の小さいうちは、出
来るだけ定時で帰り
たいんです…

男女共同参画社会
って、着替えもトイ
も一緒にすること？

子どもを多く持たたい
と思う女性ほど、相手には
「経済力よりも家庭と任
事の両立」を求めているん
ですって！ブヒー

そんなこと言っ
てないよ。どうも、正しく
理解されてない
みたいね。

8/1 記念式典にて「八代みらいネット寸劇」

一人ひとりが輝くために…
踏み出せ、一歩！

寸劇では、「…のくせに」と性別によって生き方を制限しないこと、なんでも男女が一緒にするのが男女共同参画ではないこと、子育て期間中の働き方の見直しやそれを応援する職場の理解など、たくさんメッセージが投げかけられました。

一人ひとりが持っている個性や能力に応じて多様な生き方が選択できるように、今こそ社会のあらゆる分野で、男女共同参画の視点を生かし、男女が協力しあって、地域づくり・家庭づくりを实践していかなければなりません。

皆さんの、その一歩が大切です。

CONTENTS

- ・八代市男女共同参画宣言都市記念式典
- ・男女共同参画宣言都市記念作品
- ・新市長にきく
- ・八代みらいネットだより

男性も女性も、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会

職場に活気

●女性の政策・方針決定過程への参画が進み、多様な人材が活躍することによって、経済活動の創造性が増し、生産性が向上

●働き方の多様化が進み、男女がともに働きやすい職場環境が確保されることによって、個人が能力を最大限に発揮

家庭生活の充実

●家族を構成する個人がお互いに尊重し合い協力し合うことによって、家族のパートナーシップの強化

●仕事と家庭の両立支援環境が整い、男性の家庭への参画も進むことによって、男女がともに子育てや教育に参加

地域力の向上

●男女がともに主体的に地域活動やボランティア等に参画することによって、地域コミュニティが強化

●地域の活性化、暮らし改善、子どもたちが伸びやかに育つ環境が実現

ひとりひとりの豊かな人生

仕事、家庭、地域生活など、多様な活動を自らの希望に沿った形で展開でき、男女がともに夢や希望を実現

男女共同参画社会のイメージ図 (※)

下図のように我が国の男性の家事・育児に費やす時間は、世界的にみても最低水準です。また、子どもがいる夫婦の夫の家事・育児の割合はそれぞれ3割を超えていますが、育児休業取得率は平成19年で1.56%と低くなっています。

今年、男女共同参画社会基本法制定から10周年、女子差別撤廃条約の採択から30周年にあたり、世代や性別を超えて、新たなステージに向けて、男女共同参画社会のさらなる推進を目指します。

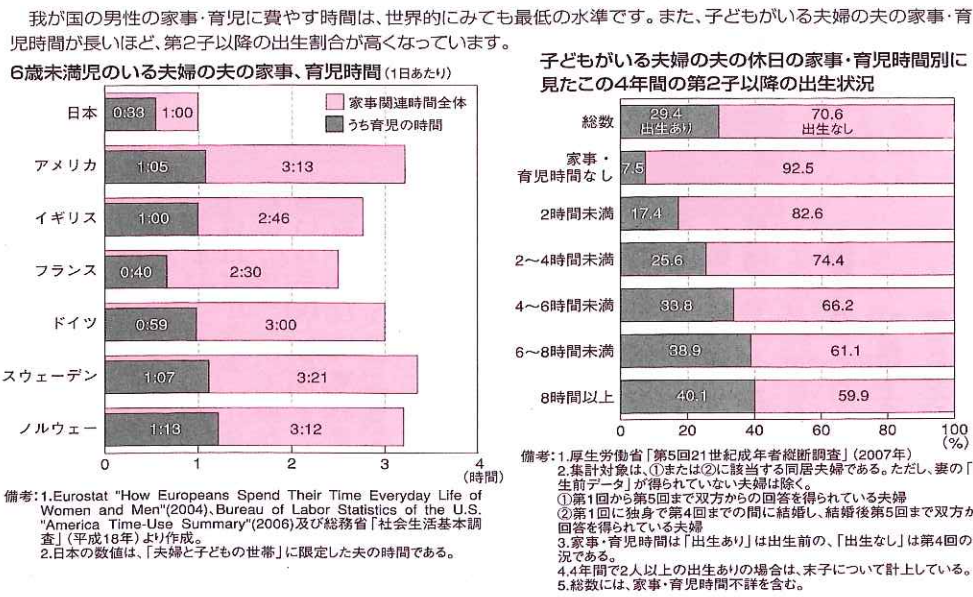
また、女性の労働力率は、依然として結婚、出産、子育て期に就業を中断する人が多く、30歳代を底とするM字カーブを描きます。

男性においても、育児休業制度・育児のための短時間勤務制度を利用したい男性の割合はそれぞれ3割を超えています。が、育児休業取得率は平成19年で1.56%と低くなっています。

内閣府男女共同参画局総務課長小野田 壮氏より、次のような報告がありました。

現状は「長寿を全うできる健康的な生活」「教育」及び「人間らしい生活」という3つの側面を測定した人間開発指数では、日本は世界第8位なのに、女性が政治及び経済活動に参画し、意思決定に参画できているかを測るジェンダー・エンパワーメント指数は世界第58位です。

内閣府報告



男性の家事・育児時間 (※)

※は「内閣府男女共同参画社会の実現を目指して」より出典

新たなステージへ!!

8月1日、内閣府と八代市主催による男女共同参画宣言都市記念式典で、内閣府からの報告、記念作品表彰、宣言文宣誓などが行われました。

わたしたちは、男女が共に支え合う元気都市“やつしろ”を実現するための一歩を踏み出しました。



6人の代表者による「宣言文宣誓」

八代市男女共同参画都市宣言

わたしたちは、自然豊かな山、川、海、そして実り多き平野に恵まれたふるさとで、性別にかかわらず自分らしくいきいきと暮らせる、だれもが住みたい、住み続けたいまち“やつしろ”を希望と誇りを持って、次世代につないでいきます。そのために、男女(ひと)がともに認め合い、支え合う元気都市“やつしろ”を実現します。

- 一 わたしたちは、家庭・地域・学校・職場における男女共同参画に関する教育、学習を進めて、男女共同参画意識の高いまちをめざします。
- 一 わたしたちは、男女の人権を尊重し、性別による差別的扱いや暴力をなくすとともに、健康でいきいきと安心して暮らせるまちをめざします。
- 一 わたしたちは、男女がともに個性と能力を発揮でき、自分らしく多様な生き方が選択できるまちをめざします。
- 一 わたしたちは、男女が対等なパートナーとして、あらゆる分野へ参画し、喜びも責任も分かち合うことができるまちをめざします。
- 一 わたしたちは、男女共同参画社会の実現に向けて、市民・地域・事業所・行政が一体となって協働するまちをめざします。

ここに、八代市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

平成21年6月19日

八代市

記念講演 「おやじの腕まくり」

講師/NHKエグゼクティブアナウンサー 村上信夫さん



「おやじの腕まくり」とは、「地域に男性を呼び戻したい」との思いで15年前に立ち上げた横浜市の自主活動グループの名前です。気がつくとも、妻は自分のネットワークを持ち、タンポポの綿毛を飛ばすように活動の

幅を広げているのに、自分地域には友だちもいない、子どもの友だちも知らないという状況・・・。

自分の子ども時代は、地域のおじさんやおばさんに育ててもらったものだった。世の男性よ、地域の公民館に出入りして是非地域を活性化して欲しい。会社と家の往復だけではなく、おやじも少しずつ腕まくりをしながら、地域社会で活動しようじゃないか! 定年後に何か始めようと思っても、その時ではもう遅いよ! 「濡れ落ち葉族・わしも族」



八代吹奏楽愛好会「この素晴らしき世界」などの演奏で新しいステージを祝いました。

粗大ゴミ」などと言われないうちに準備を始めよう。仕事や肩書きに関係ない地域の同世代の男性とのつきあいはとても楽しく、家族との会話も増えてきた。今では家族ぐるみの交流会をするほどに発展したのも、まずは自分が楽しむことを第一に遊び心を忘れず、自然体で活動しているからだろう。

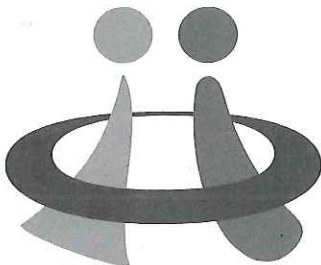
神奈川県には、こうしたグループがたくさんあるそうです。

「おやじが変わる! 家族が輝く! 地域がよみがえる!」を合言葉に、村上さんは体力と気力続く限り、地域の子どもたちと関わりながら活動を続けていこうと頑張っておられます。

八代市男女共同参画宣言都市記念作品

八代市では男女共同参画宣言都市を記念して作品を募集しました

◆シンボルマーク◆



最優秀賞

原案作成者：平野 真吾さん
(八代工業高校1年)

(説明)
八代市の市章をモチーフに、男女が対等に仲良く向き合った構図となっている。輪は、協力、仲がよい、差別のないことを意味している。配色については市章の色と同じにし、グリーンは男性、オレンジは女性を表している。

優秀賞

岡村 洋文さん
(豊原上町)



松浦 百合子さん
(大手町)



◆メッセージ(児童・生徒の部)◆

最優秀賞

作ろうよ 男女一緒に 輝く未来

深田 藍さん (八代中学校1年)

優秀賞

「男だから」「女だから」は もうやめよう

松嶋 未来さん (八代中学校1年)

つながると 大きな力 生まれるよ

中嶋 滯さん (八代中学校1年)

◆メッセージ(標語・一般の部)◆

最優秀賞

男女共同参画 未来へ繋ぐ 虹の橋

水本 繁さん (敷川内町)

優秀賞

押したり引いたり 役割分担 笑顔で作業

園田 キヨ子さん (敷川内町)

「個性と能力の時代」というけれど あなたチャンスを 生かしていますか

古閑 啓子さん (郡築1番町)

◆写真◆



最優秀賞

「収穫の喜び」

中西 彩さん
(白百合高校2年)

優秀賞



「出荷前」

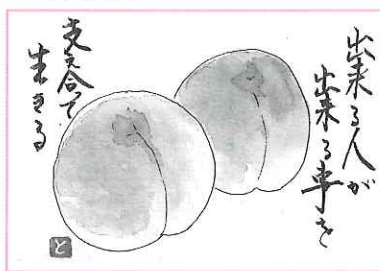
原 千映美さん
(白百合高校2年)



「トUSS!かあちゃん、今日は、おれがあらうぜ。みたいな?」

宮田 礼智さん (八代高校3年)

◆絵手紙◆



最優秀賞

今田 豊子さん
(上野町)

優秀賞



宮田 結さん (宮地小学校6年)



加賀 勝子さん (大福寺町)

◆メッセージ(川柳・一般の部)◆

最優秀賞

町づくり ボクもあなたも 手を結び

川口 健次朗さん (敷川内町)

優秀賞

支えよう 仕事と家庭 一緒にね

松下 哲也さん (豊原中町)

父ちゃんの 料理に母ちゃん 褒め上手

園田 チエ子さん (敷川内町)



加賀 円香さん
(植柳小学校5年)



上田 愛美さん
(宮地小学校5年)

新市長にきく

就任直後のお忙しい中、編集スタッフに
男女共同参画についてのお話を伺いました

■男女共同参画と聞いて思い浮かべることは何ですか？

「男女平等」・「人権尊重」ですね。近年は女性の活躍もめざましく、当たり前のことじゃないでしょうか。

■ご家庭ではどうですか？

お互いを尊重してまっすし、改めて男女共同参画を意識したことはないです。これまで夫婦で一緒に一生懸命やってきました。

■ちなみに家事はなさいますか？

ほとんどしません。お湯を注ぐだけのインスタントラーメンを作るくらいです。我が家は、着るものからすべて妻に頼りっぱなしです。うちは、妻が私にさせてくれないんですよ。これからゴ

ミ出しから始めたいと思います。

■今日はミ☆刃の取材でお伺いしています。「男女共同参画推進情報誌ミ☆刃」をご存知でしたか？

見たことはありませんが、読んだ記憶はチヨット…。すみません。

(ぐあくん!!)



■社会のあらゆる分野へ女性が参画をしていくために何が必要でしょうか？

まあ、男性の意識改革はもちろんです。女性の頑張り・気概が第一！今は女性の頑張りや認められる社会であり、それに「ノー」という社会はおかしいと思います。女性にかかわらず、個人の能力を充分活用していくには、性別による偏見や不平等意識はなくすることが大切でしょう。

■八代市の男女共同参画計画では、平成25年までの数値目標を掲げ、市役所自らが率先して推進モデルとなるよう謳われていますが…

平成25年までに「市の課長級以上に占める女性職員の割合」を6%から10%、「係長級以上」を20%から25%と目標値を定めています。

すぐ目標は達成できるんじゃないですか。ピカッと光る優秀な人材がいると感じますよ。能力のある人を上へ引き上げるのは上司の力量です。民間企業では男女とも能力を生かし、適材適所で仕事をし

ています。市役所も「八代市」のつもりで取り組んでいきたいです。



■市役所では男性の育児休業取得が昨年度は「0」と聞いていますが、このことについては？

市の計画では5年後に男性の育児休業取得率を10%と目標値に定めています。目標を単に掲げるだけでなく、取りやすい環境整備を進めることも考えなくてはなりません。

公務員が地域住民のモデルパターンとして範を示せるよう、誰かが勇気を持って取ってもらいたいですね。

■八代市民の男女共同参画意識はどうでしょう？市長として男女共同参画社会の実現に向けてどのようにリーダーシップを発揮していこうとお考えですか？

男女共同参画の土壌は育ってきていると思います。わざわざ言わなくても当たり前と受け止める八代市になればいいですね。私も市長として職員の高揚、各種施策など男女共同参画の視点に立つたまちづくりを進めていきたいと考えます。

市民にとって男女共同参画を身近な問題として考えられるよう、分かりやすい言葉で発信していきたいです。

予定の時間をオーバーするほど気持ちよく取材にご協力いただきました。ありがとうございました。男女共同参画のために、「八代市」が市民の少し前を走る役割を果たしていただけなものと思いません。宣言都市の名にふさわしいまちづくりのリーダーシップに期待しております。

八代みらいネットだより



八代産の食材を使ったおとうさんの料理教室！



とちちゃんの会

市の男女共同参画宣言都市連携事業として4つのワークショップを行いました



女性グループネット千丁



い草を使ったオリジナルリース飾り

八代市地域婦人会連絡協議会

新聞紙で作るマイバッグ



JAやつしろ 女性部



この日限定のお弁当☆

加入しました

「八代市役所職員組合」です

八代市役所職員組合の今年度の常任代議員研修会では、アクティブくまもと代表の原田躬予子さんを講師に迎えて、男女共同参画について学習しました。原田さんは講演の中で、熊本県はまだまだ意識が低く、男女共同参画の視点が生かされてないと指摘。ダーウインの「最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き残る訳でもない。唯一生き残るのは変化に対応できるものだけである」という言葉をとり上げ、変化に気づくこと、情報に敏感であることが大切と話されました。また、地域のネットワークに行政に関わる団体が加入したことで、お互い意義あるものになると評価もされました。

八代みらいネットでは、随時会員を募集しています。一緒にこれからの八代を考えませんか？

編集後記

▼「仕事を続けさせてくれる人がいい」という女性の結婚の条件は、もはや昔のもの。今は「仕事を続けてくれるよね」と男性が確認する時代になっているそうだ。ろくな就職もなかった就職氷河期を経て、20代女性には「専業主婦志向」が広まっているとも…。▼「ひきこもる」のは圧倒的に男性で、男性なら「働かない」という選択は二ト扱いされるが、女性は大手を振って家にいられる、社会に出て働かなくてもいい手段ととらえているのかもしれない。▼お見合いパーティーに行っても、なかなかカップルが生まれないのは、「養って欲しい」と切望する女性たちと、それに応えられないという男性たちの構図があるからようだ。「養ってもらおう結婚」はもうやめよう！不況に強い男女ユニットを組む結婚をめざそうよ！そんな内容の婚活の記事を読んだ。実に興味深い。

編集スタッフ

可徳陽子・古閑啓子
穂波敬子・増田真己